

# 第1回台大名大合同日本学研究国際会議

テーマ：日本語・日本文学・日本文化研究の新展開

時期：2009年8月10日（月）、11日（火）

場所：共通教育棟北棟4階（406大会議室）

一日目 8月10日（月）	
9:00	受付開始
9:30-9:40	開会式
9:40-10:15	基調講演 徐興慶（台湾大学教授）「日台学術交流の発展と変遷」
10:20-11:30	研究発表（ひとり20分）＋質疑応答10分 李宛儒（名）「日本統治期の台湾における新劇の形成と特徴」 頼鈺菁（名）「佐賀藩と『葉隠』—江藤新平の尊王運動を中心に—」 許時嘉（名）「明治知識人の文明理念—植民地とのかかわりをめぐって」
11:40-12:30	歐秋芬（台）「内藤湖南の台湾観」 劉靈均（台）「マツリカのイメージにおける母なる「中国」と処女なる「中国」：蒲原有明「茉莉花」から安西冬衛「軍艦茉莉」へ」
12:30-13:30	昼食
13:30-14:20	篠原信行（台）「雑誌『臺灣青年』の語彙」 高旅星（台）「役割語としての男性の言葉遣い—ゲームキャラクターの終助詞使用を中心に—」
14:20-15:10	石黒利江子（名）「「憎い」と「憎らしい」の意味分析」 廖紋淑（名）「複合動詞「～続ける」のV1+V2結合について—日本語母語話者と日本語学習者の比較—」
15:30-17:00	シンポジウム「言語科学研究の最先端」 ①趙萍（麗澤大学大学院生） 「中国人日本語学習者の「のだ/のか」の使用条件と非使用条件の習得と日本語能力との因果関係：構造方程式モデリング（Structural Equation Modeling）による検討」 ②玉岡賀津雄（名古屋大学教授） 「語彙的/統語的複合動詞に関するエントロピー（entropy）と冗長度（redundancy）を指標としたコーパス研究：新聞と小説の比較」 ③木山幸子（麗澤大学大学院生） 「責められた相手にどうこたえるか？：ポライトネスを決める多要因構造の決定木分析（Decision Tree Analysis）」 司会 玉岡賀津雄（名古屋大学）
17:10-19:00	懇親会

二日目 8月11日（火）	
9:00	受付開始
9:30-10:20	服部美貴（台）「日台国際児の日本語会話力—5名の7歳児のデータから—」 朱育賢（台）「多言語社会における言語習得論—数的モデルの提案—」
10:20-11:10	杉村泰（名）「Web検索を利用した複合動詞のV1+V2結合の研究」 古川智樹（名）「理解を示す「あ系」のあいづちの分析」
11:10-12:00	謝豊地正枝（台）「動詞「掘る」に対する認知論的フレーム分析」 陳由璋（台）「名詞「風」の多義性に対する意味分析」
12:00-13:00	昼食

13:00-13:50	鷺見幸美（名）「類義語「見誤る」と「見間違える」の意味分析」 田中典子（名）「第二言語における専門講義の理解」
13:50-14:40	林立萍（台）「日本昔話の特有語彙について一月刊『日本展望』を試みに」 高根京子（台）「希望表現「動詞テ形+ほしい」に対する考察」
14:40-15:35	大和祐子（名）「英単語および外来語の語彙処理が外来語を多く含むテキストの理解に及ぼす影響—中国人日本語学習者の場合—」 カンダ（名）「文の基底構造を決める基本情報は何か？—シンハラ語と日本語の対照研究—」
15:50-17:00	座談会
17:00-	閉会式

- ・懇親会は共通教育棟で立食パーティー式（1人2,000円）
- ・レジュメは各自用意する